

もよおし

特別講演 8月14日(金)夜会場：きゅりあん4階第一講習室
 演題 時刻：18：30～20：30 資料代：300円
 「日本国憲法と戦争法案」
 講演：金子勝さん（立正大学法学部名誉教授）
 共催：平和のための連絡会



催し 8月15日(土)午後 展示会場内 時間：13：00～14：20

- ・コカリナ&ギター演奏：品川コカリナアンサンブル・ギター嶋田昭治さん
- ・DVDと報告 沖縄の現場から学ぶ
- ・沖縄三線（さんしん）と唄 照屋三線クラブ

催し 8月16日(日)午後 展示会場内 時間：13：00～14：30

- ・ビデオ&トーク「日本軍の重慶爆撃」鈴木賢士さん（フォトジャーナリスト）
 自作DVD「半面美人—重慶爆撃の被害者 趙茂蓉さんの証言」の上映とお話
- ・実話紙芝居：「太平洋 蛸捕り物語」 実話紙芝居グループ

8月17日(月)10:00～16:00 展示が変わります

小島義一さんの絵で見る城南大空襲展と証言

70年前の5月24日から25日にかけて、大井町から旗の台一帯は焼け野原になりました。この城南大空襲には、3月10日の東京大空襲で使われたより多くの焼夷弾が落とされ、多くの人が家をなくしました。小島義一さんは、当時13歳。家を守るために父は家に残り、杖を突いた祖母と4歳の弟と三人で空から火の束となって雨のように降ってくる焼夷弾を避けて逃げ回りました。その光景の記憶を残すために70歳を過ぎてから描きためた絵60枚を展示します。

時：8月17日(月)10：00～16：00

証言と懇談：13：00～14：30（証言者交渉中）

体験者された方当日お話を聞かせてください。

主催：城南空襲を語り継ぐ会

募金のお願

「しながわ平和のための戦争展」は個人参加の実行委員会が賛同する皆様からの事前のまたは会場での募金をもとに毎年開催しております。会場募金は、運営の大きな支えです。募金をよろしくお願ひします。

しながわ 2015年 第32回

平和のための戦争展

戦争をする国にさせないために

わたしの「やめて」



くにとくくのけんかをせんそうといひます

せんそうは「ほくがころされないように さきに ころすんだ」
 という だれかの いいわけで はじまります

せんそうは ひとつろしの どうぐを うる おみせを もうけさせます
 せんそうは はじまると だれにも とめられません

せんそうは はじめるのは かんたんだけど おわるのは むずかしい
 せんそうは へいたいさんも おとしよりも こどもも くるしめます
 せんそうは てや あしを ちぎり ころも ひきさきます

わたしの ころろは わたしのもの
 だれかに あやつられたくない
 わたしの いのちは わたしのもの
 だれかの どうぐに なりたくない

（自由と平和のための京大有志の会宣言子ども版冒頭部分）

とき 8月13日(木)～16日(日) 17日(月)は空襲展

10時～19時00分(16日と17日は16時まで)

ところ 品川区民ギャラリー(イトーヨーカドー大井町店8階)

京浜東北線・大井町線 大井町下車 徒歩1分

主催 しながわ平和のための戦争展実行委員会

◎ 連絡先 03-5742-7563(西條明子) 03-3727-8382(扇谷道子)

第31回平和のための戦争展開催にあたって

戦後70年の夏を迎えております。1984年（昭和59年）手さぐりで始めた「しながわ平和のための戦争展」は、今年で32回目を迎えました。残念ながら「再び戦争は繰り返すまい」という国民の思いと裏腹に憲法違反の「戦争法」が衆議院で強行採決されました。けれども、「戦争はしたくない」という国民、若者たちの声が大きくなっています。

「戦争展」が、身近な地域の戦争の悲惨さを語り伝え、「戦争をする国」にさせないために親子三代で「平和」を考える場になればと願っています。

2015.8. しながわ平和のための戦争展実行委員会

○地域と戦争

小島さんの絵で見る品川の空襲 = 品川に残る戦争の足跡 =

1945年5月24日城南地域に落とされた爆弾・焼夷弾は3月10日の東京下町空襲の3倍にも上るものでした。特に戦前の荏原区は、空襲でほとんどまる焼けになりました。当時少年だった小島義一さんは、二度とこのようなことが起きないようにと、体験を絵に描きました。あなたの今住んでいるところは、焼け残ったところでしょうか。

品川の戦争遺跡

品川区には戦争の足跡がまだまだたくさん残っています。親子で歩いてみませんか。

○書で平和の心を = 憲法前文

憲法前文を書きました。書友22人が心を一つにして取り組みました。戦争は絶対してはいけない。日本の宝、世界の宝といえる『憲法9条』を今何としても守り抜くためにと、その一念を作品に込めて書いたものです。素晴らしい憲法の文言を読み直し、感じ取りながら、私自身今の平和を当たり前のように思っていたのではないかと身の引き締まる思いです。

○侵略戦争とアジア-アジア太平洋戦争の下で

日本が始めた侵略戦争—アジア太平洋戦争の犠牲者は、アジア諸国2000万余、日本は310万とされています。

「戦後50年」〈1995年〉村山談話では、「植民地支配と侵略により、アジア諸国の人々に多大の損害と苦痛を与えたことを反省し、心からお詫びの気持ちを表明する」と述べています。「戦後70年」にあたる今年、予定されている安倍談話に於いても『侵略戦争への心からの反省と謝罪を求めるものです。展示では、侵略戦争の実相を明らかにし、アジアでの平和構築に向けて考えたいと思います。

○日本国憲法と集団自衛権

昨年7月「集団的自衛権の行使容認」が閣議決定され、本年5月末「安全保障関連法案」が一括法案として国会に提出され、7月衆議院で強行採決されました。政府は会期を延長して現在参議院で審議中ですが「立憲主義に反し、違憲である」との声が各界から出され、廃案を求める声は大きく広がっています。けれども、自衛隊は米国やその他の国との共同訓練も増えて「戦争できる国」が既成事実化していく現状は深刻です。

○現行憲法と自民党「改憲草案」の比較から判る

—「戦争法案」の生みの親は「改憲草案」—

自民党の憲法改正案（2013年作成）で、日本をどのような国にしようとしているか一目瞭然です。現行憲法との比較図から安倍政権の「憲法草案」は、自民党「改憲草案」の先取りであると読み取れます。「ナチスの手口に学べ」の言葉通り、「戦争法案」を強行成立させ、改憲の手続きを経ずに現行憲法と9条を破壊し、実質的な「改憲」を狙うたくらみが見えてきます。

○沖縄戦と戦後の沖縄、辺野古の闘い

沖縄戦では、アメリカ軍が沖縄本島に上陸し本土作戦のための重要な基地として嘉手納、読谷飛行場等の整備拡充をする為に住民を追い出しました。それはたくさんの命を犠牲にしたものでした。

戦後もアメリカ基地はそのままベトナムやイラク戦争の出撃基地として使われていました。国は、基地負担を軽減するとして辺野古への移転を強行しようとしています。県民の8割以上の反対もありながら、戦後70年間も沖縄県民は苦難の中で生き、現在も闘い続けています。

○だから原発やめられない だから戦争やめられない

原発も、戦争も、そこに群がる利権集団があります。国民の圧倒的多数が反対しても何としても、なんとしてもやりたい理由は、そこにあるのです。その実態を見ていきます。

○「戦争する国にさせないために」 私たちができること

「戦争する国にさせないために」様々な活動が広がっています。地域での活動をご紹介します。

○実物が語る戦争

戦争中使われた品物を展示しています。兵隊さんに送る慰問袋、千人針。ゲートル、当時の写真、戦争中の地図、遊び道具、などなど。実物から戦争のことを語り継ぐきっかけにしてほしいと思っています。わからないことは、スタッフに聞いてください。